

**第 7 回障害者スポーツ振興ワーキンググループにおける主なご意見等
(障害者スポーツを支える人材の在り方について)**

- 東京都の人材養成の取組内容をフルメニューとすると、地域ではここからできることをやればいいと思う。また、障害者スポーツセンターの専門人材の育成と連携して進めていけるといい。
- 指導員の高齢化が課題。コミュニティとボランティアの安定的な獲得が課題。
- 指導員は、ただ、スポーツを指導するだけでなく、地域の中で障害者にスポーツを普及していく存在。障害のある人でないとわからないこともある。聴覚障害者では、デフリンピアンのプレーを見てスポーツを始める人が多い。現在、デフスポーツのカリキュラムを作成しているが、作成した後にどう養成するかが、新しい課題。
- スポーツ施設で通用する人材を育成できるといいと思う。障害者のスポーツは組織が非常に少なく、地域で活動できるように指導者を増やしていく必要がある。
- 指導者の活動場所がないこと、ニーズにあった指導者の育成をすること、が課題。パラスポーツ指導員の初級を取ったが、活動場所に関する情報がなかった。講習会に、各クラブで活動している人を呼んで、マッチングをするのはどうか。
- 年代が低い指導員の活動頻度が低い。健常者も障害者も活動しているスポーツ指導員は、高齢化していると思う。
- 何年経っても、若い人が活動できない、という課題がある。資格がなくても活動はできるので、資格をとるインセンティブを整理した方がよい。長居障がい者スポーツセンターの例は、認定校のインセンティブになっていくと思う。若い人で活動したい方は、お手伝いをするだけでなく、もっと主体的に関わりたい、という人が多いと思う。もっと主体的に関われる機会があるといいと思う。
- 若手の指導者の活性化は、昔からの課題。認定校にいたことがあるが、就職して数年経つと、忙しくて資格を更新しなくなる。長居障がい者スポーツセンターの例のような、若手が障がい者スポーツセンターで活動できることは大事だと思う。
- 東京都の事業でも、参加者は高齢者が多い。このままいくと人がいなくなるかと思うと、そうではなく、シニア層がどんどん供給されているように思う。スポーツ実施率も、健康

課題が生じる、高齢者の方が昔から高い。ボランティアの方に活躍いただきたい場、指導者の方に活躍いただきたい場、がある。どういう役割をある方に、どういう場にいていただくのか、が大事。

- 東京障害者総合スポーツセンターは、東京福祉専門職大学や近隣の医療系の障害者スポーツ指導員の養成校と連携している。東京福祉専門職大学には測定を企画から運営まで依頼している。資格取得後はセンターのスポーツ教室へ協力してもらっている。スポーツ系の学校との連携として、キャリア形成の講義やセンターで学生のアルバイト雇用等をしている。
- 障害を持った子供を指導したことがない先生が、どう教えていいかわからなくて苦労している。部活動の地域連携・地域移行も考えないといけないなと思った。
- 資格をとっても更新しないことは、ずっと続いている。マイページができて、ネット上で手続きができるといい。学生のうちに場数を踏ませるようなしくみがあると更新率が上がるのではないかな。
- パラスports指導員は女性が多い。日曜日は家庭の事情で忙しいと思われるが、放課後デイや運動部活動の地域連携・地域移行等、他の時間帯での活動の場はたくさんあると思う。特に、障害者施設の指導員はスポーツ指導ができず、散歩や階段昇降ばかりやっていることが多い。
- 若いうちに様々な経験をしておくべき。活動内容に応じた指導員カリキュラムが必要。障害者スポーツセンターでスポーツのやり方を学ぶと地域に出てもスポーツができる。